

令和6年5月14日
住民自治連絡会議にて説明

令和6年6月4日
都市内分権推進委員会にて説明

令和6年度地区ドックの概要について

1 趣旨・目的

- 人口減少・少子高齢化が進行する中、住民自治活動の質と量の見直しの一助とし、手間の軽減とこれまで以上に効果的な活動を模索する。
- 各地区の取組を棚卸・点検し、効果的な取組等を市全体で共有し展開する。
- 自治活動の管理体制・法令遵守・説明責任の点検を行い、自治活動の継続性・透明性を高め、適法性を確保する。

変化する社会情勢への対応

知見の共有と展開

より開かれた堅実で
多様性を尊重する住民自治

▶ 市

住民自治協議会には聞き取り等のお手間にご協力お願いします

- ・全体構想、企画等 地域活動支援課
- ・点検、参考になる取組や課題等の整理・提案 地区活動支援担当

▶ スーパーバイザー

東京都立大学 法学部 大杉 覚 教授（行政学、都市行政論）

総合的・学術的視点からの地区ドックの監修、助言、指導、評価



▶ アドバイザー

特定非営利活動法人 SCOP

スーパーバイザーの助言等に基づく地区ドックの調査設計、地区活動支援担当としてのワークショップの開催など

4 点検項目(案)と想定される点検の方向性・実施方法

点検項目

- ①基礎項目 ②組織や財政状況等 ③事業等の分類で項目を設定
- 地区活動支援担当が点検し、一部は住民自治協議会からの聞き取りを行う

詳細(案)は別紙

想定される点検の方向性・実施方法

- 量(負担)は縮減(軽減)方向、質(内容)は住民ニーズ重視・課題対応型で点検する。
- 上記の方向性を踏まえ、効果的な取組をピックアップするとともに、課題となる点は改善案等を提案する。
- 住民ニーズに応じたより効果的な事業が考えられれば提案する。
- 区や自治会、市との適切な役割分担を視野に入れて点検する。

5 今後の進め方(案)

時 期	内 容
令和6年6月	◆ 項目を確定し点検を開始
10月頃まで	◆ 点検を終了し、参考になる取組や課題等の抽出 ワークショップ ◆ 効果的な取組や手間の軽減の工夫など、事務局長等からアドバイスをいただく機会を設けたい
11月頃	◆ 各地区住民自治協議会へ地区活動支援担当からの報告・提案

中山間地域のあり方研究会に参加していただく9地区については
希望地区のみ又は点検項目を絞って実施の方向で検討

6 来年度以降について

- 2年に1回程度の頻度で実施したい。
- 点検項目は、必要に応じて都度見なおす。